持続発展教育（ESD）の理念に基づいた
途上国における地域医療教育モデル導入と普及

三重大学大学院医学系研究科
武田裕子

１．目的

本事業は、途上国の医学部で行われている地域医療実習（地域基盤型医学教育 Community-based Medical Education）が持続発展教育(ESD)につながる学習となるよう、実習モデルを開発して手引書を作成し、その導入と普及をはかることを目的としている。地域基盤型医学教育では地域が学習の場となる。住民が真の意味で健康に過ごすための前提条件には、平和、教育、安定した環境、持続可能な資源、社会的公正と公平など多様な領域が含まれる(1986 年 WHO オタワ憲章)。ESDという枠組みで地域医療教育を捉えなおすことで、学生が地域の環境、経済、社会、文化に目を向け、ヘルス・プロモーションの意義と医師の役割についてより深く学ぶことになると考える。

２．活動

対象地域: タイ・コンケン大学, ラオス・保健科学大学, タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学,
アラブ首長国連邦・シャルジャ大学

(1) 持続発展教育につながる地域医療実習導入と普及のためのワークショップ（WS）開催

タイ・UAE・タンザニア・日本の本課題事業活動実施者間で各大学を相互訪問し、昨年の成果物「ESD を導入した地域医療実習手引書」を用いて、ESD を推進する FD/WS を訪問先の教員対象に実施した。

① タイ・コンケン大学での事前調査(2009 年 6 月 22-27 日):三重大学国際交流基金の助成を受け、ESD の認知度や実施状況を調査し 10 月の FD/WS の開催準備を行った。またラオス健康科学大学を訪問し WS への参加を依頼した。

② タイ・コンケン大学 FD/WS(2009 年 10 月 21-24 日)：タンザニア、UAE より地域医療実習担当者を招き、コンケン大学とラオス保健科学大学教員を対象に WS を開催。

③ タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学 WS 開催(2010 年 1 月 13-14 日)

④ UAE シャルジャ大学 ESD カンファレンス開催(2010 年 1 月 16 日)

⑤ 三重大学 WS(2010 年 2 月 21-25 日)：タイ・ラオス・タンザニアの教員に三重県のへき地医療を見学してもらい、地域医療の先進的な取り組みを紹介する。2 月 27 日、3 月 2・3 日に市民公開講座、28 日に国際フォーラムを開催。

(2) モデル実習手引書の改訂版作成

10 月のタイ WS の際にグループワークとして手引書の改善点のリストアップを行った。それらを活動実施者で分担し、タンザニアの WS 実施の際に改訂版作成作業を行った。

(3) 実践事例集の作成

タイとタンザニアの WS で編集方針について相談し、各大学の事例をまとめた冊子を作成した

成果

(1) 期待する成果:参加大学において、ESD の視点で地域医療実習が見直され、ESD につながる新しいカリキュラムが導入される。成果物である実習手引書が適宜改変されて、実習に活用される。ESD への教員の理解が深まり、SD の視点をもった医師の育成が進められる。また、学生の地域での活動を通して地域住民にも ESD が広がることを期待する。

(2)成果物:地域基盤型医学教育のなかで ESD を実施するための手引書として以下を作成した。

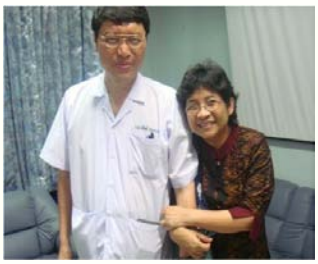
①「地域医療実習マニュアル（英語版 Student's Guide）改訂版」実習について概説している

②「地域保健医療教育のための FD 教材（英語版 Teacher's Guide）改訂版」実習担当教員の手引書で、自由に改変できるスタイルとなっている。FD にも使用可能。

③「ESD につながる地域医療実習実践事例集(英語版 Examples of Good Practices)」

持続発展教育(ESD)の理念に基づいた途上国における地域医療教育モデル導入と普及　三重大学医学部地域医療学講座

●タイの病院にこんなドクター夫妻がいます



Dr. Apisit　Dr. Tantip

23年前に、卒後4年目で赴任・・・

最初のうちはやりがいを感じ、
質の高い医療を提供すれば、
住民は健康でいられると信じていた
赴任してすぐに、妊婦検診や家族計画指導も始めた

・・・しかしあまりの患者の多さに、一人
ひとりの診療に十分に時間を割けず
5年目にはすっかり疲弊してしまった

なぜクリニックが患者であふれているのか、
自分たちが親切だからか、それとも
本当に患者が多く発生しているのか？

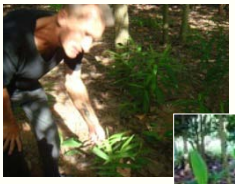
受診者の多くは貧しい農村の住民であった

ダム建設のために移住した土地は、
農業に適さず収穫が減った

換金作物栽培のために、農薬や肥料を購入
・・・・・・・借金がかさんだ
貧困から働き手は都会に出稼ぎ・・・・・・HIV感染者も
子供は祖父母が育てる・・・十分な食事が用意できず
栄養失調の子供ばかり
ミルク支給は一時しのぎ、食料クーポンはインスタントラーメンに

●そこで！まずは農家をサポート

売るための作物ではなく、
自分たちの食べるものを作る！！



庭に薬草を植えて、頭痛・腹痛・
生理痛は、まず自分で対処

豊かな農村を見学し、
村人と共に学んだ・・・

苗木を育てれば、
25年後には
家を建てる木材に

牛を1万バーツで買って育てると翌年には1万4千バーツに
子供が小さいときにはミルクを取り、大きくなったら売って学資に

●病院では

病院に畑を作り、そこに用水路もつくって水草を植え魚を増やす
塩素消毒した病院の排水は直接川に戻さずに、
そこを流れるようにした

最初は濁っている水も

川に戻るときには透明に

増えた魚を
無料で村人に
配布した

毎年200名ほど発生している
デング熱（うち数名は死亡）が、
2009年の上半期はゼロに！！

●こんなドクターが世界中に増えることを願って…

目的

持続可能な発展のための教育（ESD）を医学部や保健医療関連学科に導入するプロジェクトを行っています！

活動

ESDの理念に基づいた
地域医療教育ワークショップの開催

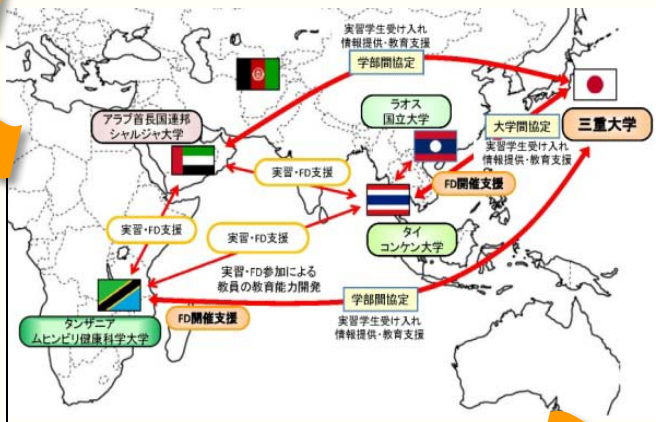
タイ：コンケン大学　2009年10月21-24日
　UAEシャルジャ大学・ラオス健康科学大学も参加
タンザニア：ムヒンビリ健康科学大学　2010年1月13-14日
UAE：シャルジャ大学　2010年1月16日
日本：三重大学　2010年2月23-25日

地域医療教育関係者に向けたESD国際フォーラム開催

三重県津市　2010年2月28日

ESDを普及するための
市民公開講座（三重・沖縄）

持続可能な発展をめざして
「タイ発！
　地域医療再生の処方箋」
三重県熊野市　2010年2月27日
沖縄県今帰仁村　2010年3月2日
沖縄県那覇市　2010年3月3日



成果物

H20年度国際協力イニシアティブ事業で作成した成果物
学生用地域医療実習ガイド「Student's Guide」
教員用実習手引書「Teacher's Guide」

平成21年度作成
●「Student's Guide」改訂版
●「Teacher's Guide」改訂版
●地域医療教育実践事例集 New!

文部科学省「国際協力イニシアティブ」
平成21年度教育協力拠点形成事業
第2回国内報告会

2010年3月2日

ESDの理念に基づいた途上国における地域医療教育モデル導入と普及

三重大学医学系研究科
地域医療学講座
武田　裕子

事業の背景

ESDの理念に基づいた途上国における
地域医療教育モデル導入と普及

WHO 「健康」の定義（1948年）

健康とは、身体的精神的社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病のない状態や病弱でないことではない。

WHO 「健康」の定義（1948年）

健康とは、身体的精神的社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病のない状態や病弱でないことではない。

WHO 「健康」の定義（1948年）

健康とは、身体的精神的社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病のない状態や病弱でないことではない。

WHO 「健康」の定義（1948年）

健康とは、身体的精神的社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病のない状態や病弱でないことではない。

WHOオタワ憲章（1986 年）

- **健康とは**

  健康とは、日常生活の資源であって、人生の目的ではない。個人やグループがどれだけ希望をもち、ニーズを満たし、環境を変えたり克服したりできるかという程度を意味している。

- **健康の前提条件**

  平和・住居・教育・食品・収入
  安定した環境・持続可能な資源
  社会的公正と公平

従来の医学教育

教育の場は大学の教室か
教育病院である大病院の病棟

地域基盤型医学教育　Community-based Medical Education

- 健康問題の予防・治療の場である「地域」に目を向け、地域を学習の場とする
- 文化や社会的背景の異なる人々と接する機会となる
- 特定の集団の健康課題や資源の再分配に関して取り上げることが多く、臨床知識や技能、自分の持つ能力や態度をもって総合的に取り組む
- 教育体験には、学生、教員、地域住民、様々な機関の担当者が積極的に関わる

地域基盤型医学教育の例

Khon Kaen University

- 保健所・福祉施設見学実習
- 診
- 地域 ssment
- 地域プロジェクトCommunity Project

その内容や取り組みは、
大学・国によって異なる

持続発展教育(ESD)
Education for Sustainable Developmentとは

Is a vision of education that seeks to empower people to assume responsibility for creating a sustainable future

持続可能な発展のための責務を果たせるよう、
個々の人々を力づけることのできる教育

UNESCO, 2005

人がかわる
未来をかえる
学びあい
それが
ESD

NPO法人「ESD-J」HPより

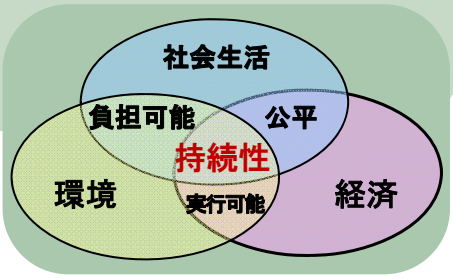
公正で平和な社会
社会的寛容
世代間・ジェンダー間の公平性
環境保護
自然資源の保護
貧困の是正

10

Sustainable Development
持続可能な発展

Development that meets the needs of the present without compromising the ability of future generation to meet their own needs.

将来の世代が影響を受けるような負債を残さずに、
現代に生きる私たちの必要を
満たす、持続性の発展



11 UN, World Commission on Environment and Development, 1987

従来の医学教育

教育の場は大学の教室か
教育病院である大病院の病棟

地域基盤型医学教育　Community-based Medical Education

- 健康問題の予防・治療の場である「地域」に目を向け、地域を学習
- 文化 … 機会となる
- 特定 … して取り上げること … や態度をもって総合的に取
- 教育体験には、学生、教員、地域住民、様々な機関の担当者が積極的に関わる

地域基盤型医学教育のなかでESDを実践 !!
…よりアウトカムが明確に！

持続発展教育(ESD)の中心となるスキル

●想像力…よりよい未来像を描ける

●現状を批判的に考える力と省察力
持続発展を促す観点から経済や社会の仕組み、
文化をとらえることができる

●体系的思考法
問題解決を図る上で、さまざまな方法を関連づける

●パートナーシップの構築
対話と問題解決のための話し合いを大切にする
ともに働く方法を学ぶ，意思決定の場に参加する

●意思決定の場に参画する
人々が自身をもって行動できるように
支援する Empowering People

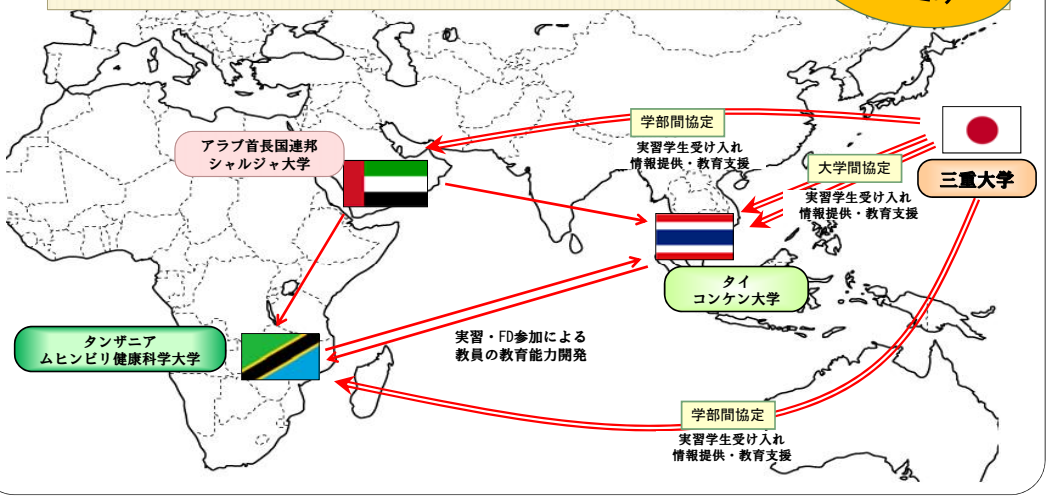
地域医療を担う医師に求められるスキル

13

2008年度文部科学省「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業

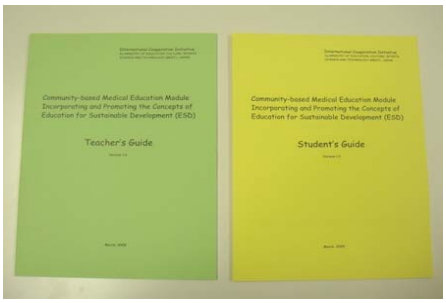
持続発展教育(ESD)の理念に基づいた
地域基盤型医学教育の実習モデル開発

前年度の取り組み



2008年度最終成果物：
ESDの視点で地域医療実習(CBME)を実施する手引書を作成

- 地域医療実習マニュアル「Student's Guide」英語版
  学生用：実習目標・内容・評価法等について概説
- 地域保健医療教育のためのFD教材「Teacher's Guide」
  実習担当教員用の手引書，FD教材として使用可能
  - 実習準備（地域の選定，事前の地域への協力依頼）
  - 実習の進め方・指導のポイント・評価法など



三重大学地域医療学講座HPからPDFを自由にダウンロード可能

事業の目的

ESDの理念に基づいた途上国における
地域医療教育モデル導入と普及

目　的

- 途上国の医学部で行われている地域医療実習(地域基盤型医学教育CBME)に持続発展教育(ESD)の視点を導入する
- 2008年度に作成した成果物「実習プログラムとその手引書」を用いてESDの導入・普及をはかる
- 各大学で改変して利用できるように手引書を改訂し、実践例(学生報告書)を集めた小冊子を作成する

➢学生は地域の環境、経済、社会、文化に目を向け、ヘルス・プロモーションの意義と医師の役割を学ぶ

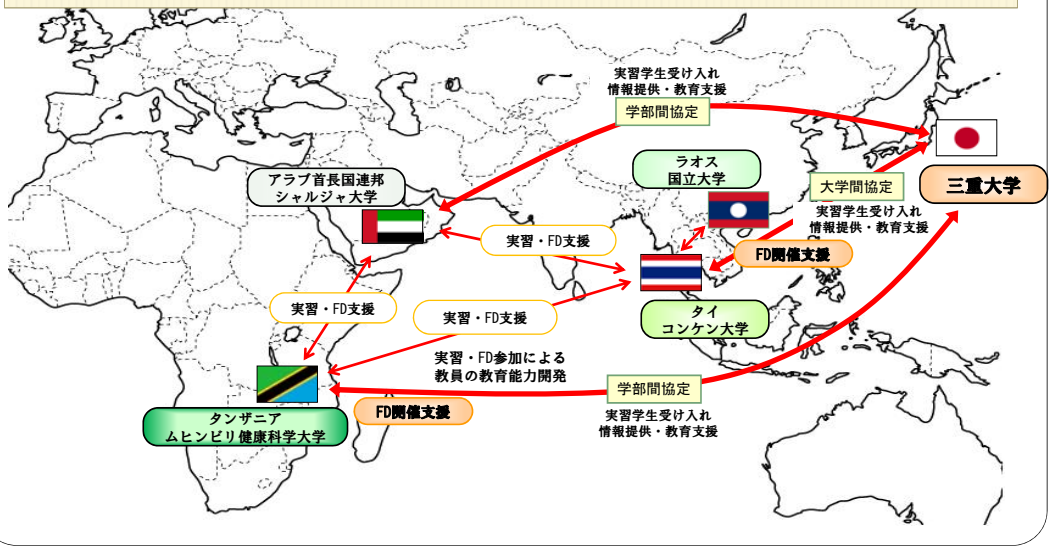
➢持続可能性のある発展(SD)に基づいた活動を地域で行える人材育成につながる

➢学生が、ESDの考え方に沿って住民参加型の地域プロジェクトを展開すれば、地域住民にもESDが伝わる

事業の方法

ESDの理念に基づいた途上国における地域医療教育モデル導入と普及

2009年度「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業
ESDの理念に基づいた地域医療教育（地域基盤型医学教育CBME）モデルの導入と普及



ESDの理念に基づいた途上国における地域医療教育モデルの導入と普及

プロジェクト参加大学
- 三重大学大学院医学系研究科
- タイ・コンケン大学医学部
- タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学
- アラブ首長国連邦・シャルジャ大学医学部
  ＋ラオス保健科学大学医学部

国内の専門家（活動実施者）
- 岡山大学大学院環境学研究科　山本秀樹先生
- 名桜大学研究機関　Eugene Boostrom先生・小川寿美子先生
  *WSのcoordinate，専門的講義ならびに「成果物」監修を担当

方　法

三重大学国際交流基金の助成による

2009年6月22-27日：タイ・コンケン大学とラオス・保健科学大学訪問
ESD認知度と実践状況調査，FD開催準備

↓

2009年10月21-24日：タイ・コンケン大学でFD実施

ラオス・保健科学大学
UAEシャルジャ大学，タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学からも参加

↓

2010年1月13-14日：タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学にてFD実施

↓

2010年1月16日：UAE・シャルジャ大学にてESDカンファレンス開催

↓

2010年2月21-25日：三重大学にてワークショップ開催

↓

事業追加申請による助成と三重大学医学部からの助成による

2月28日ESD地域医療教育国際フォーラム開催(津市)
2月27日・3月2-3日市民公開講座開催(三重県熊野市・沖縄県今帰仁村・那覇市)

事業の成果

ESDの理念に基づいた途上国における
地域医療教育モデル導入と普及

2009年6月22-27日：タイ・コンケン大学とラオス・保健科学大学訪問 ESD認知度と実践状況調査，FD開催準備

タイ・コンケン大学…ESDの紹介・WS開催準備

ESDを地域のなかで実践している医師の活動を見学(タイ)

目標がより明確に！

ラオス・保健科学大学…FD・WSへの参加要請

2009年10月18-24日：タイ・コンケン大学FD・WS実施（1）

PreWS Preparation（10月18 -20日）

- 医学部長協力依頼
- WSプログラム確認
- 発表内容調整
- 配布資料作成

WS Day 1：コンケン大学地域医療実習見学

- ESD(“self sufficinecy”)実践病院・集落訪問
  ラオス・タンザニア・コンケン・UAE大学教員
  計15名
- へき地実習サイト訪問

学生による情報収集

学生間の情報共有

住民との意見交換

プロジェクトの実施

2009年10月18-24日：タイ・コンケン大学FD・WS実施 (2)

Workshop Day 2

- 基調講演「ESDと地域医療教育」
- 各大学(タイ・ラオス・タンザニア・UAE)の実習取り組み紹介
- グループ・ワーク「ESDをどう学生に教えるか」

例) ラオスの取り組み

薬草園づくり　情報掲示板作成

参加者 33名

Workshop Day 3

- 基調講演「地域を知る7tools」
- グループ・ワーク「実習手引書改訂版作成」
- 各大学におけるaction plans策定

Workshop Day 4

- プロジェクト活動実施者WS振り返り
- 手引書改訂版作成役割分担

2009年10月18-24日：タイ・コンケン大学FD・WSの成果

- 参加者　コンケン大学：医学部・看護学部・検査学部・歯学部・保健学部・理学療法部・獣医学部　23名
  - ラオス・保健科学大学医学部　4名
  - タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学　2名
  - UAEシャルジャ大学医学部　1名
  - 日本国内の大学　3名

学生も参加して議論に貢献

- ネットワーク形成のための名簿を作成した
- 実習手引き書の改訂点が明らかになった
- "Community-based Medical Education for SD"を "Community-based Health Professions Education for SD" に変更
  - ➡ 全ての保健医療関連学科の教育に有用である
  - ➡ 多職種の学生で学ぶことでより効果的な教育となる
- ラオス保健科学大学とムヒンビリ大学では、多職種間教育として学部間で協力しての導入を検討することとなった
- 地域プロジェクトのsustainabilityを保つためには、最初からcommunityに参加してもらうプログラムを検討することとなった(コンケン大学・ラオス保健科学大学)
- ESDは全く聞いたことがない印象であったが、その概念を学びタイの「self-sufficiency」の取り組みは、まさにESDであると考えてよいという議論となった

2010年1月10 -15日：タンザニア・FD/Workshop(WS)実施

PreWS Preparation (1月10 -12日)

- 学部長協力依頼
- WSプログラム確認
- 発表内容調整
- 配布資料作成
- タイWSの宿題確認

Workshop Day 1

- 基調講演 「ESDとイニシアティブ事業」・「持続発展教育を保健医療教育に活かす」
- 実習取り組み紹介：タイ・コンケン大学
  ムヒンビリ健康科学大学(公衆衛生学部・歯学部・看護学部・薬学部)
  Kilimanjaro Christian Medical College, Hubert Kairuki Memorial University

Workshop Day 2

- 基調講演「地域を知る7tools」とESDの取り組み
- グループ討議：地域医療教育にどうESDを導入するか

Workshop Day 3

- プロジェクト活動実施者WS振り返り
- 手引書改訂版・実践事例集作成役割分担

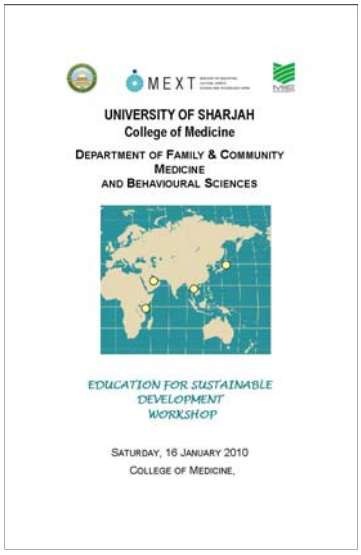
2010年1月10 -15日：タンザニア・FD/Workshop(WS)成果

- ムヒンビリ健康科学大学(MUHAS)のほか、2つの医学部が参加
- このWSで初めて学部を超え、大学を超えて、教員が各自の地域医療教育について紹介し、意見交換を行った
- MUHASの医学部のほか薬学部,看護学部,歯学部,公衆衛生学部から地域保健医療担当者が参加し、ESDと多職種間教育を導入するための検討がなされた
- Self-reliance ≠ SD (self-relianceを獲得してもSDが実現するとは限らない)
- 大学間の協力も推進する方向で検討された
- ネットワーク形成に役立つ参加者リストを作成した
- MUHASでは現在、ビル・ゲイツ財団の支援でカリキュラム評価と改訂を行っている➡ESDの視点を導入
- 参加者(35名)により、今後の活動指針“Step Forward”が策定された

Step forward

- Introduce/enrich Education for Sustainable Development in our CBHPE curricula
- Establish a multidisciplinary team of CBHPE experts to review the current CBHPE curricula (including experts from Traditional Medicine Institute)
- Harmonize different contents of CBHPE from different institutions to have inter-professional aspect with concepts

2010年1月16日:UAE・シャルジャ大学にてESDカンファレンス開催



参加者
医学部長(副学長)
薬学部長・歯学部長
地域医療学講座担当教員
タイ・コンケン大学教員3名
岡山大学・山本秀樹先生
名桜大学・Boostrom先生
三重大学・堀浩樹先生
武田裕子

2010年1月16日：UAE・シャルジャ大学ESDカンファレンス成果

- Kominkan（公民館）をベースに大学がアウトリーチをして、地域づくりにかかわることの意義が確認され、実現可能な大学の取り組みとして、他学部と連携して、市民に働きかけるプロジェクトが提案された
- ESDにつながる事例として、シャルジャとドバイ間の交通渋滞があげられた
- 本プロジェクトをベースに、「Health Professions Network for ESD」を構築し、保健医療教育関係者に参加を呼びかけることとなった
- 2011年に、シャルジャ大学において国際シンポジウムを開催する

2010年2月21-25日：三重大学にてワークショップ開催

- 成果物の確認
- 国際フォーラム発表準備
- ESDと保健医療教育の説明PPT作成
- へき地中核病院・診療所訪問，ESD講演
- 老健施設・障害者施設見学
- 病院・医師会・行政による出前式意見交換会参加
- 地元の小学校訪問・ESDの説明

2月28日ESD地域医療教育国際フォーラム開催(津市)
2月27日・3月2-3日市民公開講座開催(三重県熊野市・沖縄県今帰仁村・那覇市)

地域医療教育関係者に向けたESD国際フォーラム開催

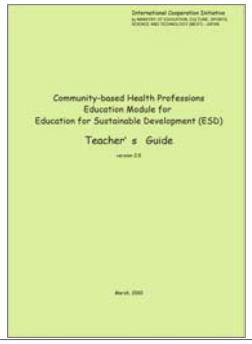
三重県津市　2010年2月28日

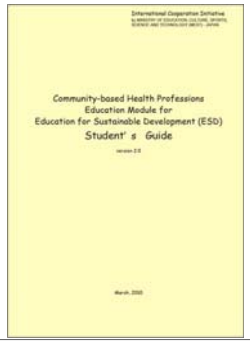
ESDを普及するための市民公開講座
(熊野市・今帰仁村・那覇市)

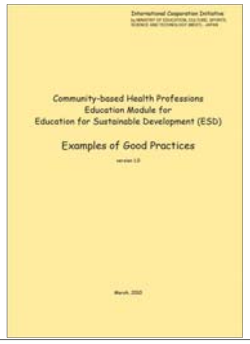
持続可能な発展をめざして
「タイ発！地域医療再生の処方箋」
三重県熊野市　　2010年2月27日
沖縄県今帰仁村　2010年3月2日
沖縄県那覇市　　2010年3月3日

事業成果物

- Community-based Health Professions Education for Sustainable Development
  Teacher's Guide Version 2.0 （ESDを導入した実習手引書:教員用）
- Community-based Health Professions Education for Sustainable Development
  Student's Guide Version 2.0 (ESDを導入した実習手引書:学生用)
- Community-based Health Professions Education for Sustainable Development
  Examples of Good Practices　Version 1.0
  （実習実践報告:プログラム＋学生レポート・発表ポスター）







結　語

ESDの理念に基づいた途上国における地域医療教育モデル導入と普及

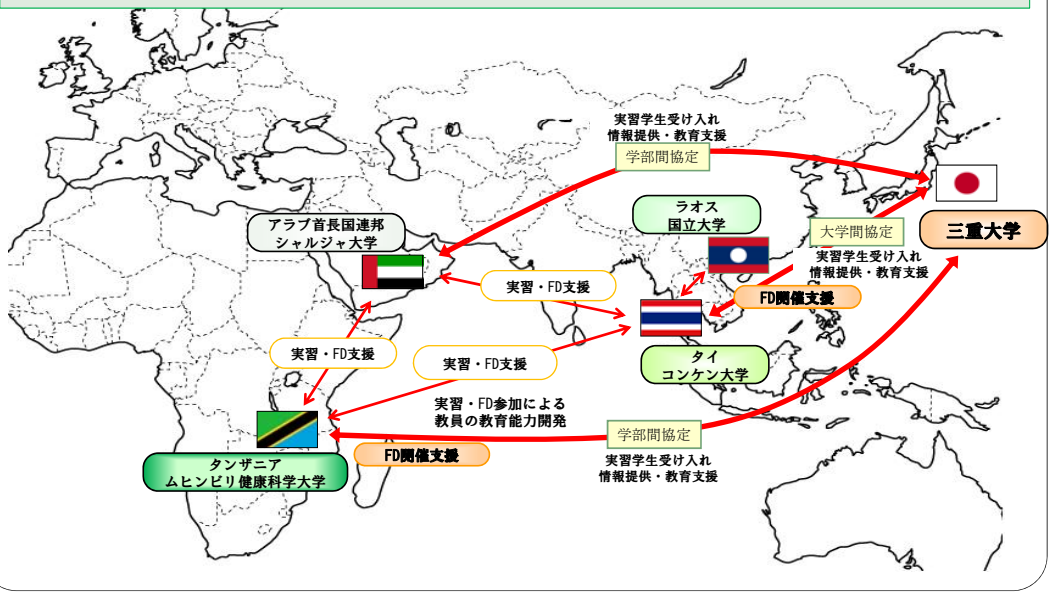
事業活動成果

1. 教材作成：教員/学生用実習手引書改訂版・実践事例集
2. 活動実施者間の情報・意見交換：相互訪問・FD実施，教材共有
3. 活動実施者の教育プログラムにおけるESD導入：
   成果物の活用・成果物へのフィードバック/改定作業
4. 参加大学間とそれを超えたネットワーク形成

学部間協定校の強み

今後の展望

1. 地域基盤型教育（CBHPE）にESDを導入している 保健医療者教育プログラムを実践している施設とその内容を見出し（“map out”）、実践例・課題などを記録物にまとめる。
2. よい実践をしている施設が教育センターとして機能するようサポートする
3. ESDを地域基盤型医学教育のなかで実践している教育機関とネットワーキングを図る＜Health Professions Network for ESD＞
4. Websiteなどを活用して情報提供し、国際カンファレンスやワークショップを開催して情報共有・意見交換をはかる＜2011年UAE・シャルジャ大学＞

2009年度「国際協力イニシアティブ」教育協力拠点形成事業

ESDの理念に基づいた地域基盤型医学教育モデルの導入と普及